【展示プログラム】

■ウィリアム・クライン写真展　「Ginza 1961　街が主役の写真展」

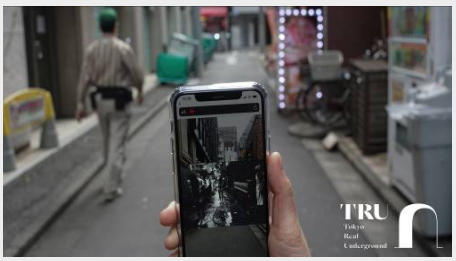
1961年に初来日した写真家ウィリアム・クラインは、約2ヶ月間東京の街を駆け回って撮影し、64年に写真集『東京』を発表しました。その中から銀座を写した10点をセレクトし、壁いっぱいに引き伸ばして展示します。オリンピックを控えて混乱と熱気に包まれていた都市を、世界的写真家の眼はどう捉えたのか。日常の風景の中に、突如として60年前の景色が現れる、都市型の写真展です。

実施日：令和３年４月１日（木曜日）～６月 13 日（日曜日）
会　場：銀座地下歩道（銀座駅・東銀座駅間地下通路）
参加アーティスト：ウィリアム・クライン

〈アーティストプロフィール〉
ウィリアム・クライン　William Klein
ニューヨークに生まれ育ち、パリでフェルナン・レジェに絵画を学ぶ。1952年より、写真技術を用いた実験的表現を模索。56年に故郷ニューヨークを写した初の写真集を刊行した後、世界の大都市をテーマにした写真集を次々に出版する。従来のタブーを破った広角の構図、粗いテクスチャ、強烈なコントラスト、型破りなフレーミング等は、続く世代に多大なる影響を与えている。

■街歩き型 AR　「ダンス・ハプニング・トゥデイ」

1961年の雨上がりの銀座・新橋街頭で、のちに舞踏の創始者とされる土方巽、大野一雄、大野慶人を撮影したウィリアム・クラインの足跡を辿ります。地図に示された場所へ赴き、スマートフォンをかざすと、そこで撮影された一連の写真を見ることができます。街そのものを展示空間にみたて、1961年と2021年の風景を重ね合わせながら350点超の写真を鑑賞する、新感覚の街歩き型AR作品。現地に行かない場合でも、オンラインにてご覧いただけます。



街歩き型 AR_撮影：naoto iina

実施日：令和３年４月１日（木曜日）～8 月 15 日（日曜日）
会　場：銀座・新橋 路上及びオンライン
※　閲覧方法は後日公式ウェブサイトにて発表します
参加アーティスト：ウィリアム・クライン
制　作：HAUS

〈制作チームプロフィール〉
HAUS（竹田大純、林洋介、稲福孝信）　HAUS (Hirozumi Takeda, Yosuke Hayashi, Takanobu Inafuku)
システム開発からデザインまで幅広く手がけるチーム。近年の主な活動に、デザインあ展《デッサンあ》のエンジニアリング、チェルフィッチュ×金氏徹平『消しゴム山』特設ウェブサイトのデザイン・開発、サウンドパフォーマンス用ライブコーディング言語「P-Code」の設計・実装等。

■オンライン年表「舞踏出来事ロジー」

舞踏は前衛芸術の先頭を直走っていただけでなく、芸能界をはじめとする商業的な世界とも密接に結びつきながら発展してきました。キャバレーやCMで踊り、万博映画に出演し、音楽番組のバックダンサーを務め、近年は人気TVドラマにも登場するなど、多方面で活躍してきた舞踏家たち。様々なメディアやジャンルと結びつき、社会に影響を及ぼしていった舞踏の歴史を年表にし、イラストとともに振り返ります。

実 施 日：令和３年４月１日（木曜日）～8 月 15 日（日曜日）
会　　場：オンライン　※　公式ウェブサイトにて公開します。
年表作成協力・寄稿：乗越たかお（作家・ヤサぐれ舞踊評論家）
イラスト：石原葉（画家）

舞踏出来事ロジー_イラスト：Yo Ishihara

【オンライン公演プログラム】

世界を飛び回り、ダンス・演劇・映像とマルチジャンルで活躍する人気アーティストたちの新作と話題作を無観客公演・撮影し、オンラインで配信します。

実施日：令和３年４月 24 日（土曜日）～8 月 15 日（日曜日）
※６月末まで毎週末に新規プログラムを公開予定です。公開日等詳細は、公式ウェブサイトで順次発表します。

出演アーティスト：伊藤キム、尾竹永子、川口隆夫、小林勇輝、酒井直之、佐藤ペチカ、田辺知美、吉本大輔　　ほか（50 音順）

『A Body in Places』＋『福島に行く』

2014年より写真家・歴史家のウィリアム・ジョンストンとともに福島の被災地を５回訪れ、撮影を重ねてきたニューヨーク在住の尾竹永子。その膨大な写真をアメリカ各地で展示、また映像に編集して映写、それとともにソロ公演も続けてきました。震災から10年の節目に、生まれ育った東京の街なかと地下空間に福島のイメージを投映し、自らの身体を重ねていきます。その姿を撮影した『A Body in Places』を、プロジェクトの６年を追った『福島に行く』とペアで配信します。

出演アーティスト：尾竹永子

〈アーティストプロフィール〉
尾竹永子　Eiko Otake
1970 年代の日本で土方巽と大野一雄、ドイツでマニア・シュミエル、オランダでルカス・ホーフィンクに学ぶ。1976 年にニューヨークへ拠点を移し、「エイコ・アンド・コマ」として独自の身体表現を追求。さらに 2014 年から始めたソロの活動『A Body in Places』で新たな注目を集めている。ホイットニー美術館、MoMA、ウォーカー・アート・センター等で継続的に作品を発表。アジア人として初めて ADF アワード（2004）、ダンス・マガジン・アワード（2006）を受賞、他多数。

尾竹永子『福島に行く』_撮影：William Johnston

『大野一雄について』

2013年の初演以来世界38都市で上演を重ね、2016年にはベッシー賞にもノミネートされた川口隆夫『大野一雄について』を、8年ぶりに東京で再演。伝説的舞踏家・大野一雄について、一方ではその動きを記録映像から「完全コピー」することで忠実に再現し、他方ではその世界観の大胆な再解釈を試みる話題作を、映像ならではの演出でお届けします。

出演アーティスト：川口隆夫

〈アーティストプロフィール〉
川口隆夫　Takao Kawaguchi
1996年よりパフォーマンスグループ「ダムタイプ」に参加。2000年よりソロ活動を開始する。2013年に初演した『大野一雄について』は世界各地で高い評価を受け、ベッシー賞ファイナリストにもノミネートされた。東京国際レズビアン＆ゲイ映画祭のディレクター（1996～99）、イギリス実験映画監督デレク・ジャーマンの著書『クロマ』の翻訳（2003）、短編映画『KINGYO』（エドモンド楊監督、2009ヴェネチア映画祭正式招待作品）への出演等、その活動は多岐に渡る。

川口隆夫『大野一雄について』_撮影：Takuya Matsumi

川口隆夫ディレクション企画「舞踏　ある視点」

パフォーマー川口隆夫のディレクションのもと、「舞踏」を批評的視点で考察していくパフォーマンスシリーズ「舞踏　ある視点」を開催。ジャンルを横断して活動する気鋭のアーティストを招き、川口本人の新作『ミノタウロディスコ』を含む約10作品をオンライン配信します。
※個別プログラムの内容は、後日公式ウェブサイトにて発表します

出演アーティスト：伊藤キム、川口隆夫、小林勇輝、酒井直之、佐藤ペチカ、田辺知美、吉本大輔　ほか（50音順）